

ZOOM UP! 「生乳」の特性と関係者の努力

栄養たっぷりおいしい牛乳や乳製品は、酪農家が大切に育てた乳牛から毎日搾られる「生乳」で作られています。安全・安心な生乳を安定的に届け続けるため、日本の酪農家と関係者は、さまざまな工夫と努力をしています。ここでは、生乳の特性と関係者による生乳需給への対応についてご紹介します。



◆生乳生産量の季節変動

牛乳・乳製品の原料となる生乳は、生き物である母牛が生み出す農産物。その生産量はさまざまな理由で変動しますが、特に大きな要因は季節による変動です。乳牛は暑さに弱いため、夏場は体力が落ちて乳量が減少し、冬場から春先にかけては増加します。ところが、生乳

の需要は、牛乳向けを中心に夏場に増加し、冬場に減少するという、生産とは逆の傾向にあります。年間を通じて、大型高速船や鉄道などにより主産地である北海道から消費地である都府県へ生乳を運んでいます。夏場はその輸送量を大きく増やして牛乳を製造しています。

◆関係者による生乳需給への対応

今回のコロナ禍で、生乳生産量のピークである春先に学校給食の供給停止などが起こり、生乳の需要が大きく減少しました。しかし、酪農・乳業関係者が、給食に仕向けられるはずだった生乳で給食用以外の牛乳やバター、脱脂粉乳、チーズをつくるなど懸命な対応を行い、また、消費者の皆様の応援のおかげで、生乳を無駄にしないで済みました。

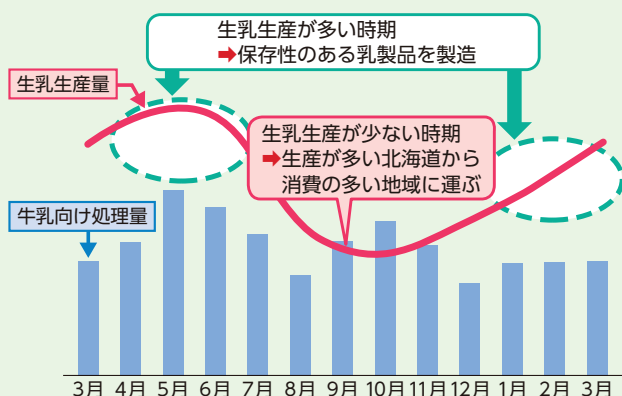
そして迎えた夏、連日の酷暑は乳牛に大きなダメージを与え、都府県の生乳生産量は想定以上に減少。北海道から都府県への輸送量を最大限にして対応しましたが、新型コロナの影響により各地の学校で夏休みが短

縮され、給食用牛乳を例年以上に多く製造しなければならなくなったことも影響し、需要に対して生乳が不足ぎみの状況となりました。

さらに近年、特に夏以降、台風などの自然災害により、輸送がストップしたり、冷却や加工処理ができない生乳を廃棄処分にせざるを得ない事態に見舞われたりすることが続いています。

消費者の皆様には、こうした生乳の特性にご理解いただきつつ、これからもぜひ、牛乳・乳製品を食卓に取り入れていただきますようお願いいたします。

例年の牛乳向けの生乳需給（都府県）



今年度の牛乳向けの生乳需給（都府県）

